

白川 昌生

「エネアデスのほうへ」

2022.4.3(sun) — 6.5(sun)



「存在の階層」2022
合板、木、ボール 104×291×130 cm

この度 rin art association では白川昌生「エネアデスのほうへ」を開催いたします。

白川は 1970 年代にフランスおよびドイツで哲学と美術を学び、1983 年に帰国。以来、群馬を拠点に、地方性、周縁性、マイナー性をあえて徹底的に引き受けながら、地域の歴史・文化・経済と直結する活動を続けています。また現代美術史に関する研究・著作も多く、優勢な歴史観や規範に対する批判・再検討を絶えず展開しています。今展では日常的な素材を多く用いながらも、かたちと色の構成配置において軽やかかつ精確であり、彫刻の魅力や可能性を開き、問い続ける新作の作品群を発表いたします。

Statement

3つの部分から成り立つものは、初め、中、終わりを有しているので完全数だと考えられてきた。その3によって構成される3×3の9も同様に考えられ、世界、宇宙、万物はそれらによって創造され、それらが1なるものになり、そこから流出してくると考えた、プロチノスの教え、それをイメージして制作した。

白川昌生（しらかわよしお）

1948年福岡県生まれ。前橋市在住。

主な個展

2014年「白川昌生ダダ、ダダ、ダ地域に生きる想像」アーツ前橋（群馬）

1994年「SHIRAKAWA' 94(日本美術試作—日本人ですか1)」佐賀町エキジビット・スペース（東京）

1992年「円環—世界」佐賀町エキジビット・スペース（東京）

主なグループ展

2019年「百年の編み手たち」東京都現代美術館（東京）

2017年「群馬の美術 2017」群馬県立近代美術館（群馬）

2016年「あいちトリエンナーレ 2016 - 虹のキャラヴァンサライ」（愛知）

「白川昌生・小田原のどか『彫刻の問題』」愛知県立芸術大学サテライトギャラリー（愛知）

2015年「メルド彫刻の先へ [彫刻と記憶]」前橋文化研究所（群馬）

[水—日] 11:00-19:00 [月—火] 休廊

contact

rin art association

370-0044 群馬県高崎市岩押町 5-24

t: 0273-87-0195 e: contact@rinartassociation w: <http://rinartassociation.com>